

もっと知りたい
ふるさと
25

ちからいし
力石条里遺跡群

力石条里遺跡群は、千曲市大字

上山田字薬師堂地籍を中心として
広がる、縄文時代から中世にかけて
の遺跡である。この遺跡は、千
曲川左岸の沖積地に位置し、力石
地区を含み、南は坂城町上五明条
里水田址に接している。

主要地方道長野上田線力石バイ
パス建設事業に伴い、道路用地内
を長野県埋蔵文化財センターが平



出土した弥生時代前期末の土器

成十三年度から二十年度まで発掘
調査を行った。この調査によって、
縄文時代中期・晩期の土器片、弥
生時代前期末から中期中葉の墓跡、
弥生時代中期後葉の住居跡、弥生
時代後期の住居跡、古墳時代の中
世の掘立柱建物跡・溝跡などが確

認された。

中でも注目されたのは、弥生時
代前期末〜中期中葉の墓跡と、弥
生時代後期の集落跡である。この
墓跡については、直径一〜一・五
メートル、深さ〇・八メートルの円形に近い
形状の穴で、中からは焼けた骨や
副葬品と思われる玉や、完形の壺
などが見つかった。出土して
いる土器の中には、地元製に混じっ
て東海地方製の土器も見つって
いる。

このことから、弥生時代の初め
の頃に、東海地方の米作りの情報
をこの地に伝えた人びとが、故郷
から持って来た土器を使って埋葬
したのではないかと想像させられ
る。また、これらの墓からみにつか
た骨は被熱しているのが特徴で、
この点は、東日本の壺の中に埋葬
する「壺棺再葬墓」と似ている。
この地点で発見された二基の墓か
らは完全に近い土器がみつかった
ている。その中の一つは「条痕文系
土器」と呼ばれる東海地方で流行
した土器で、他の一つはこの地元
製の土器である。このことから、
東海地方から移って来た人びとが
この地に住みついてきたことが何



力石条里遺跡の弥生時代前期の墓跡

える。また、この条痕文系土器を
携えて来た人びとは、米作り情報
を長野盆地にも伝えたのではない
だろうか。

このほかにも、出土品の中には、
東北や北陸・関東地方製と思われ
る物もある。このことから、これ
らの地方との交流があったと想像
される。

なお、弥生時代後期のムラ（集
落）の分布状況から見ても、登呂
遺跡と似て、集落の周辺には水田
が広がっていた、当時の景観が想
像される。

資料提供 長野県埋蔵文化財センター

文責 鎌原 賢司